

堀田 雄大の図画工作科（第1・2学年）研究計画

1 本研究で目指す子ども

今年度私は、**表わしたいものと材料の特徴とを関係付け、工夫して表す子ども**を目指す。材料の特徴とは面材（広げて使う）、線材（細くして使う）、塊材（丸めて使う）、自然材（形そのものの面白さを生かす）といった使い方のことである。工夫とは、「○○を☆☆のように表したい」という思いに合わせて、材料の特徴を生かし、複数の材料を組み合わせた表現である。

図画工作科WGで求められている資質・能力の一つに、「意図に応じて新しい表現方法をつくりだすなど創造的に課題を解決する能力」がある。私はこの「新しい表現方法」をつくりだすために必要となるのが工夫する力であると考え、なぜなら、単に材料を組み合わせるのではなく、材料の特徴を生かして組み合わせること、今までの自分の表現では考え付かなかったような表し方が生まれるからである。従来でも、例えば物語の世界から想像させ、絵や立体、工作で表現させ、工夫する力を育成しようとしてきた。しかし、活動が進むと「先生、これでいいですか」と自分の表現に自信がもてない子どもの姿が見られた。想像したことがうまく表現できなかつたり、材料の特徴を生かしながら表し方を工夫していけなかつたりする姿である。

この原因は2つある。1つ目は、材料の特徴（材料の扱い方や用具の使い方）を理解させた後、個人製作でも、その使う方や効果といったものを十分に共有しないまま、後は個別支援をしながら製作を行わせていることである。どちらも「個性的な表現」「多様な表現」を重視するあまり、子ども任せになってしまう傾向があった。これらの問題を解決するため、私は次の2点を改善する。

- ①表わしたいもののイメージを共有できる話し合いをする時間を設定してから、グループをつくり共同製作を行わせる。複式学級の実態を生かし、グループには1・2年生が属するようにする。こうすることで、表わしたいものの特徴についての共通のイメージをもつことができる。そして、共通のイメージを表すために、どんな表し方があるのかを教え合い、確かめ合う過程で技能が高まる。
 - ②共通材料と選択材料の2種類を設定し、その使い方や効果を共有させてから扱わせる。共通材料は、共通のイメージを実現させる材料となる。選択材料は、自分自身のイメージを実現させる材料となる。どちらの材料も、事前に触れさせておき使い方を理解させ、できたことを掲示できるようにまとめておく。このようにすることで、自分の表わしたいものの表し方を考えるヒントとし、子どもは自分なりの工夫を行っていくことができる。
- 上記2点の改善により、目指す姿を具現する。

2 本研究で育む資質・能力

| | ①知識や技能 | ②ツール活用能力 | ③見方や考え方 | ④態度 |
|------|---|------------------------------------|--|---------------------------------|
| 図画工作 | ○材料の特徴を生かした行為 ○材料同士、または材料と用具とを組み合わせて、思いに合うように表し方を考える | ○材料ポスターの中から、自分のイメージを表すのに必要な材料を選択する | ○表わしたいもののイメージと材料の特徴とを関係付ける ○材料の特徴を基に、表し方の工夫を考える | ○つくりだす喜びを味わう ○自分の感覚を大切に表現を行う |

3 主張する働き掛け

まず子どもに、様々な教科で得た知識や経験を活用していくことのできるテーマを提示する。

働き掛け1

表わしたいものの形や色を想起させる資料を提示し、具体を問う。

表し方への問いをもたせ、表わしたいものの特徴を考えさせるための働き掛けである。

まず、表わしたいものの形や色を想起させる資料を提示する。子どもは「こんなものがつくれそうだ」「私なら、この色を使ってみたいな」と言う。このような自分の好みの形や色を使ってみたいと願っている姿や、様々な資料の中からどのようなものをつくらうかと考えている姿が見られたら、問いをもったと判断する。その後、「つくってみたいのはどんなものですか」と問う。子どもは、これまでの経験や知識、好みなどから漠然と「○○がいい」という。ここで「具体的にはどんなものですか」と問い返す。すると子どもは「例えば形は○○で、色は△△のようなもの」と自分がイメージしているものの特徴を言う。

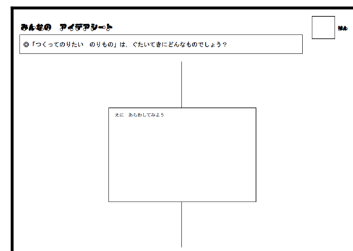
働き掛け2

「みんなのアイデアシート」に書き込む内容を予想させた後、グループで表わしたいものの具体を話し合わせる。

表したいもののイメージを共有させ、つくる視点をもたせるための働き掛けである。

各グループに「みんなのアイデアシート」を提示する。これは、中央にはイメージ図、周辺には表したいものの具体が言葉としてかき込めるシートである(右図)。こうすることで、漠然と考えていた表したいもののイメージが言葉と絵によって具体化される。

「みんなのアイデアシート」の提示後、かき込む内容を予想させる。どのような視点で書くか見いださせるためである。子どもは既習の学習を想起し、形や色につながる視点を言う。ここでグループに分け、表したいものの具体を話し合わせる。すると様々な乗り物の資料を参考にしながら、表したいものの特徴にかかわる言葉や文を見付け、「みんなのアイデアシート」に書き込み、**表したいものが具体的にどんなものか特徴を考える(資質・能力 図②③)**。



働き掛け3

共通材料を使う様子の写真を見せ、必要な表し方を問う。

共通材料の特徴を生かした表し方に気付かせるための働き掛けである。

特徴を考えた子どもに、中心となる材料を提示する。この際、提示する材料の使い方の写真を示す。写真はあらかじめ、面材・線材・塊材で使っている場面に分けておく。そして、「どんな表し方が必要ですか」と問う。すると子どもは、必要な表し方に見通しをもつ。

その後、必要な分の材料をと用具を用意し、活動に入らせる。子どもは、**材料でできることと、表したいものの特徴とを関係付け、表し方を考える(資質・能力 図①)**。材料が限定されているため、子どもはどうかして自分たちの考えるイメージを実現するための表し方を試行錯誤する。そして、**材料の面材・線材・塊材という特徴を使いながら、「つくって乗ってみたい乗り物」を表す(資質・能力 図①)**。

働き掛け4

共通材料でできたものの写真と「みんなのアイデアシート」とを提示し、「次にどうしたいか」「必要な材料は何か」と問う。

よりよい表現に必要な材料を選択させ、表し方の工夫を考えさせるための働き掛けである。

一通り表したいものの形ができあがった子どもに、現時点での写真と「みんなのアイデアシート」とを提示し、「次にどうしたいか」と問う。子どもは、「今のままでは、〇〇の部分がまだよくできていない」「もっと☆☆の部分をもっと□□にしたい」などと、さらによりよい表現にするためにどこを改善すればよいか気付く。ここで、「これからつくるとき、必要な材料は何ですか」と問う。子どもは、共通材料の他に自分の考えているイメージを実現するために適切な形や色の材料が使えそうだと考える。そこで、これまで使ったことのある材料を提示し、グループでどれを使うか選ばせる。その後、製作に入らせる。すると子どもは、表したい思いや意図に合わせて、**選択した材料を用いて表現を工夫する(資質・能力 図③)**。こうして**表したいものと材料の特徴とを関係付け、工夫して表す子ども(Cn)**になる。

自覚のための働き掛け

表現の過程を振り返らせ、よくできた点やどのように工夫できたのかを問う。

様々な資質・能力を発揮したことで課題を解決できたことを自覚させるための働き掛けである。

作品が完成した子どもに、出来上がった作品と活動中の記録写真やビデオを見せる。子どもは、「このときは〇〇をつくっていたよ」「ここで☆☆さんと話していたとき思い付いたよ」などと発言する。ここで、活動全体を通してよくできた点やどのように工夫できたのかを発表させる。子どもは様々な資質・能力を発揮したことで、課題を解決できたことを自覚する。

4 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定したCnになったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。
- ③ 子どもは発揮した資質・能力を自覚することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け3を受けて、設定した材料の特徴を生かし、複数を組み合わせて表現する様子があったかどうかを実際の子どものつくる様子や発言、ワークシートから検証する。
- ② 働き掛け1～3を受けて、よりよい表現について話し合う、「材料ポスター」から必要な材料を選択するなど、想定した資質・能力を発揮したかどうかを、活動の様子や発言から検証する。
- ③ 自覚のための働き掛けを受けて、発揮した資質・能力を自覚することが出来たかを、活動後の振り返りシートやインタビューから検証する。

5 年間の授業計画

- (1) 指定研究授業 (6月) 「オリジナルウヒアハをつくろう」(14時間)
- (2) 部内研究授業 (7月) 「乗り物レッツゴー！」(6時間)
- (3) 中間検討会 (9月) 「おおきなビックリさかなと船をつくろう」(7時間)
- (4) 初等教育研究会 (2月) 「11ぴきのソレおんとへんな〇〇パーティをしよう」(8時間)